

平成21年度 新聞記事等一覧 (4月分)

掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部署等
1	4月1日 開塾タイムス 4月号	p18~21 TIMES interview わたしの勉学時代 東京農工大学・学長 小畑秀文先生に聞く 得意科目だけに固執せず 幅広く勉強を楽しんで	東京農工大学小畑学長が、自身の生い立ちや研究活動に影響を与えた恩師とのエピソード、若い学生たちへのメッセージなどについて語った内容が掲載。	学長 小畑 秀文 学長
2	4月1日 日刊自動車新聞	3面 「ヒヤリハット」のデータベース 自動車技術会が構築 3万3000件の収集事例	東京農工大学永井教授らが中心となり整備に取り組んだ、ドライブレコーダーを搭載したタクシーから集めた交通事故の瞬間や、緊急回避の様子といった映像データをまとめた「ヒヤリハットDB(データベース)」を構築したと、自動車技術会が発表。	共生科学技術研究院 永井 正夫 教授
3	4月1日 LIBRA 東京弁護士会 4月号	p24~27 INTERVIEW:インタビュー 東京農工大学副学長 小野隆彦さん	東京農工大学小野副学長が、自己の患者としての経験を例に、患者に自覚症状が表れにくく、他の病気の原因ともなりえる睡眠時無呼吸症候群(SAS)を解説。	副学長 小野 隆彦 副学長
4	4月3日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	11面 東京農工大・カシオ 特定遺伝子有無 30分以内に診断 特殊人工塩基で高速増幅	東京農工大学松永教授、田中准教授とカンオ計算機協が、人や動物の血液を分析し、特定の遺伝子の有無を従来より二倍以上早い三十分以内で診断する技術を開発したと紹介。	共生科学技術研究院 松永 是 教授 田中 剛 准教授
5	4月6日 農経しんぼう	1面 新会長に澁澤栄氏 農機学会総会 学会賞の表彰も	東京農工大学澁澤教授が、農業機械学会の新会長に就任したこと、および、会長就任に伴う東京農工大学澁澤教授のコメントが掲載。	共生科学技術研究院 澁澤 栄 教授
6	4月6日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略47 パラダイムシフト、身近に	東京農工大学林教授が、時代の変遷とともに変わるパラダイム(価値観、規範)の例をいくつか挙げ、自分の行為が他者へ影響し、さらに時代を経て、自らに跳ね返ってくることを理解し、人ごととせず、身近なケースに置き換え、何がおかしいのか、どこに矛盾が潜んでいるのかを考える時代が到来したと解説。	技術経営研究科 林 志行 教授
7	4月8日 日経産業新聞	9面 2030年への挑戦 次世代産業技術 ヒト臓器に「動物工場」 ^① カイコの糸で血管再生	東京農工大学朝倉教授らが、カイコの遺伝子を組み換えて、絹糸から細くて丈夫な血管作りに取り組んでおり、絹の持つ性質を利用し再生医療に使う試みを紹介。	共生科学技術研究院 朝倉 哲郎 教授
8	4月9日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	19面 東京農工大と大学院教育連携 情報機構	東京農工大学が独立行政法人情報通信研究機構と、連携大学院協定を締結し、東京農工大学の教員として情報通信研究機構の研究員が大学院生の指導に携わると紹介。	共生科学技術研究院 共生科学技術研究院 宇野 亨 教授 須田 良幸 教授
9	4月9日 日刊工業新聞	21面 5部門249人に科技賞 文部科学大臣表彰 若手は蘆原氏ら81人	東京農工大学蘆原特任准教授らが、文部科学省09年度科学技術分野の文部科学大臣表彰である若手科学技術者賞に決定したと紹介。	共生科学技術研究院 共生科学技術研究院 森島 圭祐 准教授 蘆原 聡 特任准教授
10	4月10日 毎日新聞	25面 カーナビデータ基に安全対策 埼玉県、ホンダと協力 「追突注意」表示、植え込み剪定... 急ブレーキ7割減	東京農工大学永井教授が、急ブレーキ多発地点の抽出に対し「客観的データに基づく新たな取組」と解説。	共生科学技術研究院 永井 正夫 教授
11	4月10日 科学新聞	2面 NICTと農工大が連携大学院協定締結 情報通信の協力強化	東京農工大学と独立行政法人情報通信研究機構(NICT)が連携大学院協定を結んだことで、東京農工大学の教員としてNICTの研究員が、単位授与を含めた大学院生の指導を行える。また、NICTは従来から本学大学院生を受け入れてきたこと、情報通信分野のより一層の強化がされることを紹介。	共生科学技術研究院 共生科学技術研究院 宇野 亨 教授 須田 良幸 教授
12	4月15日 朝日新聞(夕刊)	1面 運転中ヒヤリ データベース化 車載カメラの動画3万3000件	東京農工大学と東京大学、社団法人自動車技術会の研究チームが、交通事故一歩手前の事例(ヒヤリハット)の実際の録画を約3万3千件集め、データベースを作成したことを紹介。	共生科学技術研究院 永井 正夫 教授
13	4月17日 読売新聞 (地域・多摩版)	30面 農工大が新型蓄電装置 電気量3倍、量産も可能	東京農工大学直井教授らと日本ケミコン(株)による寄附講座「キャパシタテクノロジー講座」の一環で行われた研究により、電流の放電と蓄電を瞬時にできる蓄電装置「キャパシタ」の性能を高めることに成功したことを紹介。	共生科学技術研究院 工学府 直井 勝彦 教授 玉光 賢次 客員教授
14	4月17日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	16面 マンスリー編集特集 エネルギー争奪 新局面 燃料電池 商用品の量産開始 コスト低減、普及のカギ	東京農工大学永井教授らのグループが、燃料電池の触媒に、高価な白金を使用せず、コバルトとタンクステン主原料とする低価格触媒を開発したと紹介。	共生科学技術研究院 永井 正敏 教授

掲載年月日	媒体名	記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等
15	4月17日 科学新聞	2・4面 平成21年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 若手科学者賞	東京農工大学森島准教授・蘆原特任准教授が、平成21年度科学技術分野の文部科学大臣表彰である若手科学者賞に決定し、文部科学大臣表彰若手科学者賞を授与されたことを紹介。	共生科学技術研究院 共生科学技術研究院 森島 圭祐 准教授 蘆原 聡 特任准教授
16	4月18日 YOMIURI ONLINE	web 人間並みの高齢ペット介護、足場・保険・サービス...	東京農工大学林谷准教授の調査で、03年までの約10年間で、犬の平均寿命は8.6歳から11.9歳、猫の平均寿命は5.1歳から9.9歳に延びたことを紹介。	共生科学技術研究院 林谷 秀樹 准教授
17	4月20日 日経産業新聞 (日経テレコン21)	17面 「カーボンフットプリント」 住友林業、合板に 国産材	東京農工大学が2006年度から住友林業(株)と共同で、製品の原材料調達から製造、販売、廃棄、再利用における全段階の環境負荷を総合評価するライフサイクルアセスメント調査を行ったことで、住友林業クレスト(株)が製造・販売する国産材合板にライフサイクル全般の過程で排出された温暖化ガスを二酸化炭素に換算し簡易表示するカーボンフットプリントが表示可能となったと紹介。	共生科学技術研究院 服部 順昭 教授
18	4月20日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略48 第2新幹線と第2グリーン車	東京農工大学林教授が、新幹線に対し、国民への還元を意識し、広告収入などによる創意工夫もできる異業種連合による「第2新幹線」を実現し、海外への技術流出を防ぎつつ、安全・安定・安心を確保した技術を世界へ売り込むことや利用者の利便性を考慮した「第2グリーン車」の設定などについて提案。	技術経営研究科 林 志行 教授
19	4月21日 朝日新聞 (第2多摩版)	24面 多摩マリオン 講座・講演 東京農工大公開講座・健康スポーツ講座「テニス・基礎編」	東京農工大学公開講座「テニス・基礎編」の開催案内。	共生科学技術研究院 田中 幸夫 准教授
20	4月22日 日刊工業新聞	30面 ロボ産業の集積地に 習志野会議所(千葉)、9月に協議会 福祉・環境で産業連携	東京農工大学などが参加したロボット競技大会、「先端ものづくりチャレンジ2009イン習志野」を主催した習志野商工会議所が、企業や大学と連携し、「ロボット関連産業創出コンソーシアム」を発足させることを紹介。	ロボット研究会R.U.R. 廣松 航平 氏
21	4月27日 日刊工業新聞	4面 未来思考 経営戦略49 「ゼロベース経営」始動	東京農工大学林教授が、日本も人口減少で空間と時間に余裕ができるが、いまだ忙しく動き回る強迫観念に支配されている。ここから脱し、柔軟に対応できる仕組みを模索し、新しい環境へ適応するネットワーク、環境資源への配慮が求められる「ゼロベース経営」を提案。	技術経営研究科 林 志行 教授
22	4月27日 日刊工業新聞	20面 世界をつかめ！ -日米アジアのハイテクVB 中国発イノベーション ベンチャー投資で日本凌ぐ	東京農工大学卒業生で日本アジア投資(株)の奥氏が、中国ではハイテク企業に対する優遇政策が施され、外資系ベンチャーキャピタル(VC)の中国市場参入が相次ぎ、すでに日本のVC投資市場規模を凌駕しているが、外資企業からの技術導入や技術ノウハウの内製化によるものが多く、真の中国発イノベーションを創出するには、労働集約型から技術集約型への転換が迫られており、持続的な発展のために、技術開発力が試される時代に入ると解説。	工学府 奥 祐介 氏 (卒業生)
23	4月27日 日刊工業新聞	21面 内径1.5mmの人工血管開発 再生医療向け新素材 カイコの「絹」に着目 東京農工大	東京農工大学朝倉教授、中澤助教が、遺伝子組み換えカイコに由来する絹を材料に、内径1.5mm程度の人工血管を開発し、ラットへの移植した結果、1年後に機能している割合が85%と既存材料より良好な結果となっている。しかし、問題である安全性について医師や患者がカイコから作られた人工血管を受け入れ、人間で使えるようになるには5年、10年のスパンを要すると解説。	共生科学技術研究院 工学部 朝倉 哲郎 教授 中澤 靖元 助教

追加記事等

掲載年月日	媒体名		記事(番組)表題	記事(番組)内容	掲載関係者・部局等	
1	3月10日	日経キャリアMAGAZINE 4月号	p32 カリスマ講師が伝授 28回 キャリアはこの能力でつくれ!	東京農工大学松下教授が、イノベーション力を公益分野に活用し、社会起業手法を取り入れた「社会イノベーション」の可能性を解説。	技術経営研究科	松下 博宣 教授
2	3月22日	THE JAPAN TIMES	7面 海はプラスチックからの有害物質に満ちている	東京農工大学高田教授が、世界で初めて海洋プラスチックが有害化学物質の汚染源となっていることを明らかにし、その成果をもとに国際ベレットウオッチという地球規模でのモニタリングを提唱して、世界汚染マップを作成しつつ、Reduce, Reuse, Recycleに加えRefuseを提案していることを紹介。	共生科学技術研究院	高田 秀重 教授
3	3月30日	日本経済新聞	25面 教育 法人化後の国立大 履修システム 教養課程への熱意 反映 評価基準へ重み増す	東京農工大学が、河合塾による国立大学の教養・共通教育履修システム設計評価において、学際的科目を設置している大学の一つであること、「履修指定」「初年次ゼミ」「学際的科目」によるシステム評価で、合計得点が高かったと紹介。		
4	3月30日	日刊工業新聞	33面 未来思考 経営戦略46 強いサムライの条件	東京農工大学林教授が、グローバルに攻めるには、DNAを獲得できる「場」「環境」を設けることで、成果は後から付いてくると解説。	技術経営研究科	林 志行 教授
5	3月30日	埼玉新聞	6・7面 ~将来にわたって'農が誇れる街。'を目指し ~ 川口の農業を考える有識者会議からの提案 都市農業の復権と発展のために50年後にも 農のある街	東京農工大学澁澤教授が座長を務める「川口の農業を考える有識者会議」において、食料自給問題から、環境問題と多方面にわたる論議が行われ、都市型農業の今後について提案。	共生科学技術研究院	澁澤 栄 教授
6	3月31日	東京新聞	21面 絹で再生医療 東京農工大が研究 人体になじみ、高強度 安価で安定供給	東京農工大学朝倉教授が、高強度な絹タンパク質を核磁気共鳴分光法(NMR)を駆使して構造解明し、新素材の絹により、人工血管などの再生医療材料として利用する研究を進めていると紹介。	共生科学技術研究院	朝倉 哲郎 教授
7	3月31日	中日新聞 (web)	web [科学] 絹で再生医療 東京農工大が研究	東京農工大学朝倉教授が、手術用縫合糸など長年医療現場で使われてきた絹を、核磁気共鳴分光法(NMR)を駆使し、新素材の絹を人工血管などの再生医療材料として利用する研究を進め、絹の優れた特徴を背景に、再生医療材料の基幹産業を創生することを目指すとして解説。	共生科学技術研究院	朝倉 哲郎 教授